

幼児と児童のつながり、教職員のつながりを意識した幼小連携

1 連携先

本園では修了児が多く就学する近隣3校の桑園小学校、二条小学校、資生館小学校との交流を行っている。3、4歳児のうちから異年齢の幼児同士の関わりを大切にすることで、成長や進級する喜びを感じられるようにし、さらに5歳児が学校訪問や学校行事に参加することで、小学生への憧れの気持ちや入学への期待感をもてるように教育課程・年間指導計画に位置付けている。また、昨年度から桑園小学校とは互いの教育内容や指導方法についてより理解を深め、幼小で学びを連続させていくことをねらいに、幼児と児童の交流に加え教職員の交流も行っている。

2 幼児と児童の交流

(1) 桑園小学校との交流

- ① 10/4 (火) 主幹教諭の案内で、校内探検をしながら全学年の授業を見学。体育館を自由に使う時間や図書室の図書を読む時間を設け、小学校の広さを体感したり、就学への期待を膨らませたりできるようにした。
- ② 2/24 (金) 学校のスキー授業が終わった時期にスキー山を借用し、そり遊びをした。学校到着時に幼児が中休み終了後の児童と自然と触れ合えるよう3時間目に時間を設定した。

(2) 二条小学校との交流

- ① 11/10 (木) 学習発表会 児童公開日への参加
本園の生活発表会前に学習発表会を開催する二条小学校1年生の発表を観覧。表現の楽しさを感じ、生活発表会への見通しをもてるようにした。また、子どもたち同士で招待状や礼状のやり取りをすることでつながりを感じられるようにした。
- ② 2/28 (火) もちつき会の参加
学校で行うPTA主催の日本の伝統行事に参加。1年生や地域の方ともちつきを通して交流を深めた。

(3) 資生館小学校との交流

- ① 1/27 (金) 1年生の算数の授業を見学
校内見学の中で全員がトイレを借用できるようにするなど幼稚園と小学校の生活の違いを体感できるようにした。

3 桑園小学校との教職員の交流

- (1) 授業参観日・地域公開保育を活用し、互いの授業や保育を観る機会を設けた。
- (2) 互いの教育内容や指導方法、幼児・児童の育ちについて交流した。

- ① 会場 昨年度は桑園小学校、今年度は中央幼稚園で行った。
- ② 参加者 小学校
幼稚園
- ③ 交流内容 ア) 園内見学と年間指導計画や写真を活用したプレゼンテーションを通して幼児期の学びや幼児の育ちについて交流した。
イ) 1、2年担任より、生活科の教科書や懇談会資料を基に、入学当初の学校の取組や児童の育ちについて交流した。
ウ) 段差を滑らかにするための今後の取組について意見を交流し、幼稚園では変化に対応できる柔軟な心を育むこと、小学校では楽しい教育のスタートとしての迎え方の工夫をしていくことを確認した。



園内見学を通じた交流

4 成果・考察

幼児と児童の交流では、幼児が小学校への見通しをもったり、幼児と児童がつながりを感じたりすることができ、入学への期待を高めることや成長を感じることに繋がった。保護者からは、小学校との交流を通して入学への不安が和らいでいるなどの声が上がっている。教職員の交流では管理職だけではなく低学年担任や5歳児担任も参加することで、より具体的な幼児・児童の育ちや学びのつながりが見える交流を行うことができた。またその日の遊びの様子や環境を見ながら交流した園内見学は、幼稚園の環境を通じた教育を伝えるには効果的だった。今後もこれまでの取組を生かした連携を計画していくなど、学びのつながりを意識した継続的な連携を図っていきたい。

【札幌市立幌西小学校との連携】

- ・当園の5歳児（4月就学予定）が小学校を訪問させて頂き、小学1年生と交流しています。現在は、授業の中で子どもたちが遊ぶ遊びや、一緒に楽しめる遊びを考え、事前に準備してくださっています。
- ・園児1～2名に対し、小学生が3～4名のグループを教職員間で事前に相談し決めています。今年は直接小学生が待っていた体育館に、小学生が準備してくれた魚釣り、ボーリング、輪投げ、すごろく等の遊びを一緒に楽しみました。

【成果】

- ・初めての場所で、初めて会う相手と過ごすことで、普段の生活では気付きにくい子どもたち一人一人の課題を再認識する機会となっています。
- ・交流の時期が、例年、就学時検診に行く頃なので、当園児にとっても小学校で1年生と一緒に遊ぶ経験は、小学校に向けての安心感や期待感につながっているように思います。



【考察】

- ・回数を重ねていく中で、施設や授業の“見学”から、園児と1年生の子ども同士が触れ合う“交流の場”となっていきました。
- ・今後も連携を続けていくことで、子どもたちの就学に向けた期待感や入学後の安心感につながるように努めていきたいと考えています。



【新たな試みとして】

- ・当園からの働き掛けでいくつかの小学校の先生方に来園して頂き、保育の様子を見てももらう機会を何度か設けることができました。特に支援が必要な子どもたちの集団での現状を共有できることで、就学に向けてお互いに安心感を得られたと感じています。
- ・当園にある『支援を必要とする子どもたちの保護者サークル』のお母さん方と、特別支援学級と通常学級の授業の様子を見学させて頂く機会を年に1～2回設けています。今年度は、緑丘小学校を訪問し、保護者の方からの質問に直接答えて頂きました。子ども同士の連携だけではなく、保護者と学校をつなげていくことで、お子さんの入学後の安心を得られるように考えていきたいと思っています。

《年長児がヨサコイを披露》

つぼみ幼稚園

〒064-0807

中央区南7条西25丁目1-5

【緑丘小学校1年生との交流】

- ・ 9月14日(水)、10月11日(火)の2回小学校で実施。
- ・ 年長児が緑丘小学校に訪問し、1回目は体育館、2回目は各教室に分かれての交流。体育館ではフープリレーや猛獣狩りゲームを楽しんだ。教室では、1年生が学校クイズや、折り紙を折ってくれ、学校でどんなことを体験するのか等も教えてもらうことができた。

【緑丘小学校5年生との交流】

- ・ 11月11日(金)、2月14日(火)の2回幼稚園と小学校で実施。
- ・ 12グループに分かれ、幼稚園では5年生が遊びを提案し大縄や鬼ごっこ、トランプ、折り紙、カプラ等で一緒に遊んでもらった。小学校では主に学校探検をさせてもらい、様々な教室に連れて行ってもらえることが出来た。

※1年生、5年生とも小学校側から交流を企画してくださり、毎年楽しい交流の場面である。

※年長の8割程度が緑丘小学校に入学する予定。

【成果】

- ・ 小学校に行き、実際に体験することで入学を意識したり、楽しみにしたりする姿が増えている。
- ・ 小学校の先生方にも年長児がどの位の事が出来るのか等も見てもらうことが出来たので良かった。
- ・ 入学に不安感を懐いていた子ども、優しく小学生や先生が関わってくれたことで楽しみにする姿に変化していった。

【考察】

- ・ 1度の交流ではなく、各学年2回行うことで、前回の活動を思い出し楽しんで交流する姿が見られ、小学校が楽しい場所となっている。
- ・ 小学校で交流することで、環境にも慣れ入学してからもスムーズに生活を送れるようになっていっていると感じる。
- ・ 入学予定の園児を伝え、実際に子どもの様子も見て頂き、引継ぎの場にもなっている。
- ・ 今年度は、幌西小学校に学校訪問をし、校内を見学させてもらった。今後は二条小学校、円山小学校も見学させてもらいたいと考えている。



ジャンケン列車勝ったよ！



小学校の中を探検だ！

札幌市あけぼの保育園

〒064-0811

中央区南11条西10丁目1-3

【山鼻小学校との連携】

あけぼの保育園では、平成24年度から山鼻小学校と交流している。今年度は、初めて6年生が職業体験で保育園に来園し、園児と触れ合った。

- | | |
|-----|-------------------------------|
| 5月 | 保育士が1年生の授業を参観 |
| 8月 | 学校プールで校長先生とプールあそび |
| 9月 | 小学校校庭を借りて運動会開催 |
| 10月 | 6年生の職業体験受け入れ |
| 11月 | 学校探検 |
| 11月 | 学習発表会～1年生の練習を観覧 |
| 12月 | 学校図書室訪問 |
| 12月 | 小学校の先生を招き、年長保護者対象に小学校生活に向けた講話 |
| 2月 | 小学校雪山で小学生とそりすべり交流 |

その他、参観日、入学式、運動会、生活発表会、卒園式等に職員が相互に出席し、交流を深めている。

【成果】

- ・交流5年目となり、幼保小連携、地域連携として身近な存在となっている。年長児は、小学校の先生方の名前も覚え、出会いを楽しみにするようになった。
- ・交流の打ち合わせなど、担当職員間でやりとりができるようになった。年長担当保育士が、直接、小学校の先生から1年生の様子や情報を聞くことができ、保育に活かすことができた。
- ・職業体験では、6年生が園児を抱っこしたり、膝に乗せたり、お世話体験をした。「生まれて初めて小さい子どもに触った」「小さい子の肌は、柔らかくて温かかった」と喜んでくれた。乳幼児と触れ合う経験が少ない児童にとっても、一人っ子の多い園児にとっても貴重な体験になった。

【考察】

- ・保護者にとっても、入学に対する不安の解消になっている。
- ・今後も、いつでも気軽に交流し合える関係づくりを目指し、自然な形で園児と小学生と交流の場を作っていきたい。



小学校のプールで、校長先生と一緒に遊ぶ園児



小学校の中休み時間に、雪山でチューブすべりを楽しむ小学生と園児

こどもプラザ青い鳥

〒060-0008

中央区北8条西23丁目2-20

【日新小学校との連携】

- ★ 一年生の学習発表会の様子を観覧
- ★ 開放図書室の利用、小学生と一緒に読み聞かせの観覧

【成果】

- ★ 学習発表会の観覧では、大きなステージ、たくさんの小学生を初めて見る子は驚いた表情であった。卒園した子どもを見つけると安堵の表情にかわり発表を真剣に見入る姿に、小学生への憧れを口にする子もいた。
- ★ 絵本の読み聞かせは、事前に司書の方に連絡をしていたので、子どもたちの喜ぶ本を選んでくれていた。回を重ねるごとに、閲覧スペースでの過ごし方も、緊張がほぐれ柔らかい表情になっていた。また、大きな頭文字で仕分けされた絵本に、文字への興味・関心が強くなっているのが分かった。

【考察】

- ★ 今年度初めての取り組みではあったが、子どもたちの期待感が伝わっていた。
- ★ 今後も継続して、色々な場面での小学校との関わりを深めていけるように努力が必要と感じました。

【図書室で楽しんでいるところ】



認定こども園マミーポッケ

〒060-0052

中央区南2条東1丁目1-2

【札幌市立中央小学校と連携】

6月の運動会見学、8月の避難訓練ではグラウンド開放日に合わせて小学校のグラウンドをお借りして実施しました。また、地域の交通安全運動での鼓笛隊パレードやマラソン大会など、憧れの眼差しで応援していました。11月の学習発表会では、6年生の劇の一時間の発表に真剣に見入り、12月のお祭り広場では小学校のお兄さん、お姉さんにたくさん教えてもらいながら、的当てやボーリング等のゲームで楽しく交流させていただきました。年長児対象の2月の「雪だるま大作戦」見学では、少しの時間ではありましたが、バケツの水を使っての雪像づくりに、「すごいなー！」と歓声を上げ小学生のたくましさに感動していました。



「雪だるま大作戦①」



「雪だるま大作戦②」



「鼓笛隊パレード」



「発表会」

連携することで、小学生に対しあこがれをもち小学校へ行くことへの期待の高まりが強く感じられ、年長児の引き継ぎに関しては、当園に来園していただき、直接お話しすることが出来たり、又保護者にもお便り等を通して連携の大切さを伝えてきたので、より理解が深まるよう今後も継続して働きかけていこうと思います。

札幌市立中央小学校

〒060-0041

中央区大通東6丁目12

【地区保育園・こども園との連携】

・中央小学校との連携 D2ブロック（○認定こども園・□保育園）

○ 認定こども園カトリック聖園こどもの家、認定こども園マミーポッケ

□ 駒鳥保育所、大通夜間保育園、鉄道弘済会札幌保育所、大通雲母保育園

・連携の様子

テーマ「つながりをつなげよう」

＜職員間＞のつながり

- ・1学期にブロック交流会（茶話会）
- ・行事のお誘いFAX交流（随時）
- ・避難訓練の連携練習（夏休み）
- ・学習発表会の観覧

＜子どもたち＞のつながり

交流のため
の土台づくり

- ・幼保開放日の設定（通年）
- ・地区パレードの見学（2学期）
- ・学芸会児童公開日への招待：年長児
- ・生活科「おまつり広場」に招待
：1、2年生児童と年長児
- ・休み時間のなわとび交流（2学期）
：5年生児童と年長児
- ・年長園児への出前授業（冬季休業中）
：本校職員と年長児童
- ・縦割活動の見学（3学期）
- ・学校訪問（2～3学期）：年長児

＜保護者＞のつながり

- ・幼稚園、保育園での講演（1月）

お兄さんお姉さん1年生としてがんばるぞ！
6年生として、1年生をサポートするぞ！

・連携に至る経緯

今年度も「つながりをつなげよう」をテーマにして連携を図った。1学期には、ブロック内で交流会を開き、1年担任も参加して児童交流を行った。各園との行事予定などを確認しながら交流できる活動を話し合った。特に後期は、継続して取り組んでいる年長児と5年生児童とのつながりを大切にしたい取組を実施することができた。

【成果】

- ・幼保小連携推進協議会での交流以外にブロック内で話す機会も増え、園や学校の行事だけでなく研究会や研修会等にも互いに気兼ねなく参加し交流できるようになった。
- ・通年で幼保開放日を設定し、いつでも来校できる機会を設定した。園の子どもたちも毎年、おまつり広場への参加や学習発表会の観覧など楽しみにしている活動になっているようである。また、運動での交流に対して互いに興味をもち、今年度もなわとび交流が継続して行うことができた。
- ・昨年に引き続き、保育園年長児童に「小学校ってこんなところ」という内容で紙芝居を用いた出前授業を行ったり、保護者向けに小学校生活の準備に関する話をしたりすることもできた。

【考察】

担任の先生方同士で交流できたことは、子どもを幼保の時から連続的に見守る体制として大切であると実感した。卒園後の子どもの様子が心配な園の先生方も学校に来校する機会が増えたことで、共有する機会も増え、引き継ぎがしやすくなったのではないかと考えている。



【なわとび交流の様子】



【交通安全パレードの様子】